

おにもつはいけん

こむぎのすむかすみがおかには、たった一いちりょうのでんしゃがはしっています。
ある日、こむぎは、いとこのあゆみちゃんに、きんぎょあかの赤ちゃんをあげるため
に、おにいちゃんと、でんしゃにのりました。ガタゴト、ガタゴトゆれるたびに
きんぎょがはいつている水すいそうもゆれて...

(吉田道子/文 梶山俊夫/絵 福音館書店刊)

松戸市立図書館本館	365-5115
子ども読書推進センター	331-0077
明分館	368-6705
古ヶ崎分館	367-4500
小金分館	343-8658
小金北分館	343-3302
小金原分館	344-8269
五香分館	386-8250
新松戸分館	343-6006
東部分館	391-0595
常盤平分館	387-2528
二十世紀が丘分館	392-7022
松飛台分館	386-6401
馬橋分館	341-4100
馬橋東分館	346-2054
稔台分館	367-7196
六実分館	385-0117
矢切分館	368-1243
八柱分館	387-2613
八ヶ崎分館	348-6636
和名ヶ谷分館	392-1102

《先生・保護者のみなさんへ》

「こどものほんだな」は、平成22年7月から、平成23年7月までに出版された児童書の中から図書館が選び、子ども達に紹介するものです。子ども達と一緒にぜひお読みください。

あんない

え あいているじかん え

- ・火かようび～日にちようび
- ・9時30分～5時

え おやすみの日 え

- ・月げつ曜日
- ・図書館としよかんのカレンダーを
見みて下ください
- ・館かんによって
お休やすみの日ひが違ちがいます



こどものほんだな

(低学年用)



松戸市立図書館

平成23年度発行



ブンタとタロキチ

キツネのブンタとタヌキのタロキチはともだち。ともだちだけど、ときどきけんかもする。ある日、ふたりは川へサワガニをとりに行った。サワガニがたくさんとれるのでふたりでわけることにした。大きいカニ小さいカニと分けているうちに、とうとうけんかになってしまった。（丘修三作 ひろかわさえこ絵 文研出版刊）

もりのたいしょうは はりねずみ

もりのまんなかにはポプラの木があった。そのてっぺんであかいぼうしをかぶったキツツキがはたらいていた。「おい、おまえ、もりのだいく。このもりのたいしょうはだれだ？」じめんのほうから、ひくいくまのうなりごえがきこえた。すると、キツツキは、こうこたえた。（モーラ・フェレンツ作 レイク・カーロイ絵 うちかわかずみ訳）

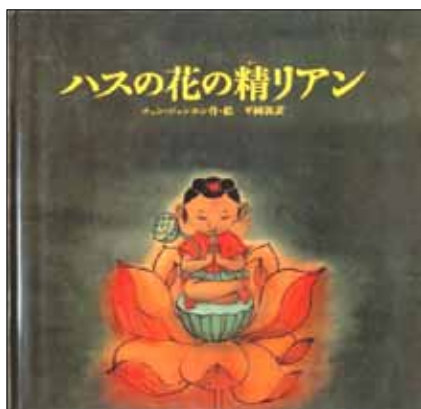


ヘビとトカゲ きょうからともだち

あるはるの日のことだった。ふゆのあいだねむっていたヘビが、いわかげからはいでてきた。ひなたぼっこをしたかったのだ。やがて、ぴったりのばしょを見つけ、ながいからだをのばしていると、一ぴきのトカゲが立っていた。（ジョイ・カウリー作 ガヴィン・ピショッブ絵 もりうちすみこ訳 アリス館刊）

ハスの花の精リアン

あるところに、小さな木のふねにすむローおじさんという、りょうしがいました。まいにち魚をつっていました。ある年、魚がぜんぜんとれなくなりました。ある日、見しらぬおばあさんにふねをだすようにいわれ、むこうぎしまでふねをだしてあげると、そのお礼におばあさんはたねをくれました。（チェン・ジャンホン作/絵 平岡敦訳 徳間書店刊）



ほんなんてだいきらい!

ミス・ブルックスはとしょじつのでせんせいで、ほんがだいすき。でも、わたしはせんせいみたいに、ほんをすきにならないもん。でもミス・ブルックスは1ねんじゅういろいろなほんをよんでくれる。（バーバラ・ポットナー文 マイケル・エンバリー絵 さんべりつこ訳 主婦の友社刊）

ふしぎなまちのかおさがし

サムくんのおじさんがかっている犬はダックといひます。ダックは「まちのかお」をみつけるのがとくいです。あめでぬれたどうろやブロックのへい、こうえん、みなさんもなにげないところをよーく見てごらん。（阪東勲/写真・文 岩崎書店刊）



小さな小さな七つのおはなし

森の中の高い木の上にフクロウのホーホはすんでいました。ホーホはなんでもしているおじいちゃんがだいすき。おじいちゃんはまほうのめがねをかけているから、なんでもしているんだ。ある日おじいちゃんがいねむりをしていて、めがねがおからおちてきて...。他に、6つのおはなしがあります。（リリアン・ムーア作 福本友美子訳 高桑幸次絵 日本標準刊）

さらば、シッコザウルス

きのう、ぼくはゆめをみた。カイジュウがでてきたゆめだった。ぼくはオシッコにいきたかったのに、カイジュウはぼくをロケットにつれていき、トイレのドアをあけてくれた。ぼくは、ほしをみながら、オシッコをした。そうおもったとたん、めがさめた。ふとんをさわると...。（服部千春作 村上康成絵 岩崎書店刊）



アヤカシ^{やっきやくへいてん}薬局閉店セール

アカシヤ^{やっきやく}薬局は、さくらさんというおばあさんがひとりでやっている。
 去年^{きょねん}この店の^{みせ}近くに^{ちか}大きなドラッグストアができたので、お客^{きやく}さんが
 あまりこなくなりました。

(伊藤充子作 いづのかじ絵 偕成社刊)

こどものほんだな

(高学年用)

松戸市立図書館本館	365-5115
子ども読書推進センター	331-0077
明分館	368-6705
古ヶ崎分館	367-4500
小金分館	343-8658
小金北分館	343-3302
小金原分館	344-8269
五香分館	386-8250
新松戸分館	343-6006
東部分館	391-0595
常盤平分館	387-2528
二十世紀が丘分館	392-7022
松飛台分館	386-6401
馬橋分館	341-4100
馬橋東分館	346-2054
稔台分館	367-7196
六実分館	385-0117
八切分館	368-1243
八柱分館	387-2613
八ヶ崎分館	348-6636
和名ヶ谷分館	392-1102

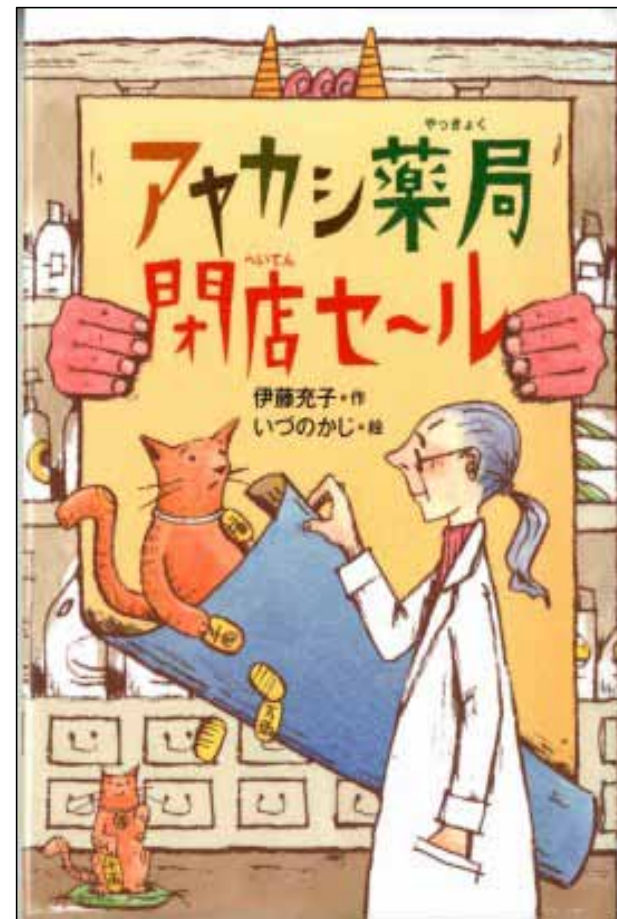
あんない

え あいているじかんえ

- ・火^かようび～日^{にち}ようび
- ・9時^じ30分^{ぶん}～5時^じ

え おやすみの日え

- ・月^{げつ}曜^{よう}日^び
- ・図書館^{としよかん}のカレンダーを
見^みて下^{くだ}さい
- ・館^{かん}によって
お休^{やす}みの日^ひが違^{ちが}います



《先生・保護者のみなさんへ》

「こどものほんだな」は、平成22年7月から、平成23年7月までに出版された児童書の中から図書館が選び、子ども達に紹介するものです。子ども達と一緒にぜひお読みください。



松戸市立図書館

平成23年度発行



ケイティとひまわりのたね

ケイティとおばあちゃんは、美術館に行くことにしました。ケイティがゴッホのかいた「ひまわり」の絵を見ていると絵の中から花びんがドッスンとおちてきました。そのときゴーギャンのかいた「踊るブルターニュの少女たち」の絵の中から笑い声が聞こえてきました。本物の絵の中でケイティと一緒に遊んでみませんか？（ジェームズ・メイヒュー作 西村秀一訳 結城昌子監修 サイエントリスト社刊）

リターン！

おれの名前は遠藤一樹、小学5年生。みんなはおれのこと「イッキ」って呼ぶ。何をやるのもめんどくさくて、母さんはおれのことをめんどくさい病にかかっていると言う。ある時、おれは江戸川の河川敷でブーメランをやっている人たちと出会った。（山口理作 岡本順絵 文研出版刊）



鳥に魅せられた少年—鳥類研究家オーデュボンの物語—
ジョン・ジェームズ・オーデュボンは、スケートも狩りも、乗馬も得意でしたが、なによりも大好きだったことは、白の出から白の入りまでずっと、鳥の観察をすることでした。ジョンは、小鳥が秋になると姿を消し、そして春になるともどってくることについて長い間研究しつづけ、それを絵に残していきました。（ジャックグリーン・デビース文 メリッサ・スウィートさし絵 樋口広芳日本語監修 小野原千鶴訳 小峰書店刊）

ちょっとだけ弟だった幸太のこと

今日からぼくのうちに犬がくる。あずかりボランティアといって、すて犬を保護して新しい飼い主が見つかるまで犬を育てるボランティアだ。犬は1才半のオスなので、幸太という名前をつけた。今日からぼくの弟だ。（東多江子作 宮尾和孝絵 そうえん社刊）



赤ちゃんは魔女

ゼップ家に7人目の女のあかちゃんが生まれました。名前はヨランダッラといいます。一番年上のカルリカルラは、わたしがあかちゃんの世話をしなくちゃとやる気まんまん。はじめておふろに入れたけど...。（ピアンカ・ピッツォルノ作 杉本あり訳 高橋由為子絵 徳間書店刊）

これは本

パソコンが得意なロバくんは、本というものがよくわかりません。本が大好きなサルくんはロバくんの質問に、ていねいに答えてくれます。本はマウスや、パスワードなどパソコンに必要な物は何もいらない。だって本は、字がたくさん書いてあるから。みなさんも本が好きになりますよ。（レイン・スミス作 青山南訳 BL出版刊）



小公女

主人公のセーラは7才でセレクト女子寄宿学園に入りました。父親のクルー大尉が大金持ちだったので、セーラは特別寄宿生としての扱いをうけることになりました。しかし、その父がインドのダイヤモンド鉱山の開発に失敗してしまい、セーラは、学校の生徒ではいられなくなってしまいます。（フランシス・ホジソン・バーネット作 高樓方子訳 エセル・フランクリン・ベッツ画 福音館書店刊）

しめかざり

みなさんはしめかざりって知っていますか？お正月になると、家の門や玄関にかざるものです。「年神様」というお正月の神様をお迎えするためです。この本には、しめかざりの作り方、種類など、いろいろなしめかざりが紹介されています。（森須磨子文絵 福音館書店刊）

